



ICTによる航空宇宙産業への貢献とは?

あこがれの日本航空宇宙工業会のメンバーに加えていただき、かつ投稿の機会を得ましたことを大変光栄に思っています。弊社は10人に満たない小企業ですが、社員の大半はIT関連の大企業などを卒業した老練な技術者で、主に「情報セキュリティ分野」と、「ITによる後方支援活動」などのコンサルティングを中心に活動しています。

第1の、情報セキュリティ分野では、特に米国のNIST SP 800-171に関する専門情報を持った集団です。米国連邦政府の保護情報であるCUIに対する保護要求規則ということでは耳にされたことがあるのではないのでしょうか。防衛省における「保護すべき情報」に相当する特約条項に当たりますが、その適用についてノウハウを蓄積しており、これまでに多くの企業様に情報提供およびコンサルティングをさせていただいてきました。

本年から、米国ではCMMCという第三者認証の仕組みも始まる状況において、我が国防衛省でも新情報セキュリティ基準が施行されます。国家安全保障にかかわる本工業会の皆様もセキュリティ対策に余念のない状況と考えます。また、根本的・組織的な対策として、これまでのISMSに対応する米国流のRMF（リスクマネジメントフレームワーク、NIST SP 800-37）も推進されつつあります。今後は、次期戦闘機（GCAP）の共同開発の対象国である英国の情報セキュリティ基準、欧州全般で取組んでいるCyber EssentialsやAirCyberなどの適用状況も見逃せません。そういった、

情報セキュリティの海外動向について、皆様のお役に立てるとありがたく思います。

第2のITによる後方支援活動では、主に航空機など防衛装備システム等の維持・整備におけるコスト分析を科学的に行う手法であるデジタルモデリングによるLSA（後方支援分析）ツールや分析活動を提供しています。欧米では20年以上前から、Do More for Less（より少ない予算で、より多くの能力発揮）という合言葉でDX化が進んできている技術です。

本分野では特に英国国防省での適用を推進しているコンサルタントとの連携により、これからの国際共同開発などでお役に立ちたいと考えています。特に、注目すべきは後方支援データの「ASD/AIA Sシリーズ国際規格」で、単なるデータ標準以上にプロダクト開発や維持の思想を検討・規格化したものです。今後はIPS（統合プロダクトサポート）の体系を情報発信するとともに、広く教育機関などにも紹介してゆきたいと考えています。

我が国航空宇宙産業界がさらなるコスト競争力を付け、世界基準で戦えるべく頑張っておられるように、弊社自身も日夜勉強を続けています。製造業の会社が多い本工業会の中で、弊社はITを生業とする異質な会社ですが、出身企業等において防衛や航空産業などに携わった者も多く、お世話になった航空宇宙産業の発展に我々のICT技術・ノウハウが寄与できることを願っています。

今後とも皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。